

カーボディマスター科、 自動車整備・トータルマスター科			2026年度 授業計画			
時 期	3年前期	単 元	実 習	教科名	溶 接	
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	日産車体士テキスト		発行日	
			日産塗装士テキスト			
総時限	38				教科 担当	2026年3月31日
総時間	60.8					上谷 晃一 濱村 和樹

1. 指導教員の実務経験
該当
 非該当

車体整備士として自動車板金、塗装全般の実務経験がある教員により板金全般の工具の取り扱い、損傷部分の修正について指導

2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）

- ・各種溶接の原理、特長とその溶接作業の基礎を理解する。
- ・酸素・アセチレンガス溶接作業について理解する。
- ・電気アーク溶接について理解する。
- ・電気抵抗スポット溶接について理解する。
- ・ガス・シールドアーク溶接について理解する。
- ・ドリルの取り扱いと研磨について理解する。

3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）

- ・各種溶接の原理と特長を説明できる。
- ・ドリルの取り扱いと特長を説明できる。

4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）

- ・実習授業時に行なう溶接作業が正しく出来るか、又、筆記試験の記述により100点満点で評価する
- ・合格点：60点以上
80点以上：優 60点以上：良 60点未満：不可
- ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。
再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。
- ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。

5. 準備学習

- ・過去2年間で学んだ自動車整備の基礎知識全般を復習しておくこと

6. 学修時間と単位

本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。

1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。

カーボディマスター科、
自動車整備・トータルマスター科

2026年度 授業計画

時 期	3年前期	単元	実習	教科名	溶接	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	溶接機の安全と基礎知識。溶接機の点検、整備の実施。				・酸素アセチレンガス	
2	酸素・アセチレンガスの操作手順。溶接法（メルティングプールの作り方）				・ガス溶接作業台	
3	飛石法による突合せ溶接。				・ガス溶接トーチ	
4	"				・ライター	
5	"				・ガス溶接用めがね	
6	" 作品提出				・皮保護具	
7	溶棒を使ったメルティングプールづくり。				・簡易マスク	
8	"				・溶接棒	
9	溶棒を使った突合せ溶接。				・イス	
10	溶棒無しでの三角柱づくり。				・平板 3 0 × 3 0 0 mm × 0 . 8 t	
11	"				・木ハンマー	
12	"				・ガス漏れチェックプレー	
13	"				・やっこ	
14	" 底板の溶接。				・MIG溶接機	
15	"				・溶接ワイヤ	
16	"				・モンキーレンチ	
17	"				・ニッパー	
18	" 作品提出				・スパッタ保護スプレー	
19	ガス・シールドアーク溶接。点溶接の練習。				・マイトン	
20	点溶接による突合せ溶接。				・マイトン用砥石	
21	突合せ溶接。				・エアドリル	
22	MIG溶接による三角柱づくり。グラインダーによる切削。				・スポットカッター	
23	" 水密検査含む				・スポットカッター研磨機	
24	"				・ベルトサンダー	
25	"				・ベルトサンダー用ベルト	
26	"				・エアソー	
27	プラグ溶接。				・スポット溶接機	
28	"				・サイドシルアウター	
29	スポット溶接機の使い方。					
30	ドリルを使ったスポット溶接剥離。プラグ溶接による修復。					
31	"					
32	"					
33	エアソーを使ったサイドシルアウターのカット作業。					
34	シルアウターの突合せ溶接。ベルトサンダーによる仕上げ。					
35	"					
36	"					
37	"					
38	"					

※ 期末試験は授業時間に含まない